

第26回 大和川流域総合治水対策協議会 議事録

開催日時：平成27年2月26日（木）10:15～11:40

開催場所：桜井市立図書館

出席者：近畿地方整備局長、奈良県知事（代理）、出席23自治体（奈良市、大和高田市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町）

『大和川流域の力を結集した洪水対策』

総合治水対策の推進について事務局からの資料説明後、大和川流域を「生駒いかるが・平城圏域」、「曾我葛城圏域」、「布留飛鳥圏域」の3グループに分け、総合治水対策に関する方策の課題等についてグループ討議を行った。

グループ討議後の意見発表の内容は以下のとおり。

生駒いかるが・平城圏域グループ（圏域を代表して、三郷町長が発言）

- 圏域内の意見交換で様々な問題点や意見が出てきたので紹介させて頂くと、
 - ・水田が減ってきているので水田貯留が難しい
 - ・ため池を改修、管理するのに補助金を出して頂きたい
 - ・市街地の内水対策にも補助金を出して頂きたい
 - ・ため池や水田貯留については、地権者や水利組合の協力が得られない
- そういう状況であっても、大和川流域の最下流の町として上流地域へのお願いとなるが、ため池や水田貯留などを活用した流出抑制を進めて頂きたい。
- ため池については、大雨が降る前に、（事前放流といった）調整をしていただければ有り難い。
- まとめとして、水田貯留を進めて頂きたい。また、ため池も有効利用できるように水利組合との調整を図って頂いて、大和川が健全にいくように皆さんにお願いしたい。

曾我葛城圏域グループ（圏域を代表して、大和高田市市長が発言）

- （大和川流域の洪水対策は）流域全体でしっかりと各々の立場で、共に力を出し合いながら解決に向けて努力していくしかないのではないか。
- 大和高田市は、16.5km²という小さい町で、民家が立ち込んでいます。大きな対策はできないが、内水対策に取り組んでいます。
- 耕作放棄地や寄付頂いた宅地などを活用して洪水対策用の池の整備を予定してい

- る。抜本的な対策ではないが、30分、1時間でも一時的に雨水を貯留し、下流に時差をつけて流す。下流域への責任のもと、やらせていただいている。
- また、防災調整池の設置については、平成14年から1000m²以上3000m²未満についても市独自で指導してきた。
 - 国は、国の持ち分、県は県の持ち分、市町村は市町村の持ち分があるが、力を出し合うことが唯一の解決策と思っている。
 - 一級河川の中で、砂が溜まっていくところは限られている。毎年段々と溜まっていき、島みたいになり草木が生えている。
 - 大和川の河床の切り下げを全川していただければそれで解決することであるが、それはできないので、少しずつその限られた場所の土砂を掘削していただければ効果があると思っている。
 - 奈良県も内水対策に積極的に取り組んでいくと発表していただいている。地域と連携していく中で、補助金等ご協力願えたらと思っている。

布留飛鳥圏域グループ（圏域を代表して、田原本町長が発言）

- 圏域内の意見交換で様々な問題点や意見が出てきたので紹介させて頂くと、
 - ・この地域は、ほとんどが皿池であり、ポンプアップが必要など治水利用に向いていない。
 - ・一番、安価で効率的と思われる水田貯留が非常に重要ではないか
- 田原本町は、ご存じのように昭和57年に初瀬川（大和川）が決壊して大きな被害が出て以降、河川改修を進めて頂いたが、近年では、内水の氾濫が非常に多く見られる。
- 内水被害の軽減のため、田原本町では、今年度は貯留施設の整備に着手し、来年度からはため池の治水活用を検討している。
- これらを補完するものとして、田原本町におきましては水田貯留を考えている。
- 平成24年度は、県の協力を頂きまして、試験的に3.7haで水田貯留を実施した。平成26年度には、20.7haに拡大し、流出抑制に取り組んでいる。
- ただ、課題の一つである畦畔が低いという問題がある。貯留量が少ないということになるので、県の意見も聞きながら畦畔の嵩上げをしていきたい。
- 水田貯留は、本町だけで対策をしても効果が小さく、できる限り上流の市町村にも協力して頂きたい。
- 本資料を拝見させて頂くと、今年度から本町も含めて県内において、8市町村で水田貯留を実施している。特に、布留飛鳥圏域については、6市町村で実施されている。今後ますます県内に広がっていくことを期待する。
- 水田貯留は、流域対策としての効果があると確信しているが、現在、大和川総合治

水対策に位置づけられていない。水田貯留を上げていくためには、流域整備計画の見直しにあわせて、総合治水への位置付けをお願いしたい。

- 今後も流域全体で情報交換を行い、国、県、市町村がそれぞれの取組を計画に反映し、総合治水対策が進むことを期待する。

総括<<奈良県 加藤部長>>

- ・ 本日は活発なご議論有り難うございました。
- ・ 3つグループからの話しを聞かせて頂き、ため池治水や水田貯留の課題のご指摘を頂いた。
- ・ 流域整備計画の中にどう位置付けるのか、どういう仕組みで進めていくのかということについて、今後も議論を重ねていきたい。
- ・ あわせて、防災調整池の設置基準について、3000m²以上となっている基準をどのようにしていくかということについても議論をお願いしたい。
- ・ また、内水対策や流出抑制、河川の土砂撤去という話を頂いたが、それぞれを切り離して考えるのではなく、流域での1つの取り組みというような形の中でパッケージ化していくというのも1つの方向性ではないかと思う。
- ・ さらに、流域での取り組みをパッケージ化する中で、まちづくりという形にまで作りこんでいくことができるのであれば、それらに対して県からの支援を少し上乘せしていくというようなことも議論の対象になってくるのではないかと思う。
- ・ 今後、流域の関係者で、大和川の流域対策、更にまちづくりといった仕組みについて議論を深めていきたい。

総括<<近畿地方整備局 森局長>>

- ・ 短時間でございましたが、ご熱心な議論、大変有り難うございました。
- ・ 奈良県の方々、また、各市町村の方々、流域対策に対して一生懸命取り組んで頂いている事に敬意を表したい。
- ・ 今回、大和川の治水安全度を高めるためにご提案頂いた、水田、あるいはため池の貯留等の機能を高めていくというものを一体的にやっていくというのは極めて重要であると認識した。
- ・ 奈良県が管理する支川の河川改修も急ピッチでやって頂いており、事業の効果をいっそう高めるためにも沿川の貯留対策等を一体的にやって頂く事は極めて重要である。
- ・ 各市町村の圏域毎に出して頂いている目標、あるいは対策について、より一層のご

尽力、ご協力をお願いしたい。

- ・国土交通省でも、河川整備計画に位置づけた河川改修、堤防強化、そして遊水地という対策のピッチを上げて進めていきたい。特に遊水地事業に関しては、奈良県の内水対策と一緒にやっていくことで、計画を詰めており、地元と調整していく。
- ・3箇所の遊水地予定地については、県、または地元の全面的なご協力を頂くなかで、地権者への説明を進めているが、4月以降、さらに詳細な絵姿を描いて、スピード感をもって事業を進めていきたい。
- ・国と県、そして地元の皆様方との一体的なスピード感をもった対策というのが、大事だと思っている。費用の面でもいろいろご苦勞があるかと思うが、国、奈良県と調整して、しっかりとサポートはさせていただく事をお誓いして、皆様方と一体となった総合治水対策を進めていきたい。

以上